

# INDEX

会長就任ご挨拶 .....	2
日本教育工学会 第 29 回全国大会開催にあたって.....	3
日本教育工学会 第 29 回全国大会のお知らせ（最終報）.....	4
日本教育工学会シンポジウムの開催報告.....	6
2013 年度 日本教育工学会冬の合宿研究会のご案内（第一報）.....	9
日本教育工学会 大学教員のためのFD研修会のお知らせ（第一報）.....	10
研究会の発表募集「テーマ：エンタテインメントを活用した教育／一般」.....	11
研究会の開催報告「テーマ：大学教育への教育工学的アプローチ／一般」.....	11
特集号「1人1台端末時代の学習環境と学習支援」のご案内（第三報）.....	12
日本教育工学会 第 29 回 通常総会議事録 .....	14
日本教育工学会 第 14 期 第17回 / 第 15 期 第1回理事・評議員会（合同）議事録 ...	15
日本教育工学会 第 15 期 第2回 理事会 議事録.....	17
新入会員.....	19

## 会長就任ご挨拶

日本教育工学会 会長 山西潤一（富山大学）

平成 25 年度の役員改選の選挙によって、第 7 代日本教育工学会の会長に選ばれました。身に余る光栄と感謝しながらも、私のような知も才もないものにとって、この重責を務めることが出来るかどうか不安でいっぱいです。幸い、能力も経験も豊富な、吉崎静夫教授、中山実教授、赤倉貴子教授の 3 人に副会長になっていただき、理事の皆さんの協力のもと、学会の発展のために微力では有りますが頑張りたいと思います。

私事になりますが、私自身が教育工学に出会ったのは、1982 年、縁あって富山大学の教育実践研究指導センターに奉職してからのことです。

当時、コンピュータや様々な教育機器を教育や学習指導に有効に活用したり、その影響などを分析する研究施設が全国の教員養成大学に設置され始めた時代です。それまで、脳の神経機構を心理生理学的手法とコンピュータ解析によって明らかにする研究をしてきた私にとって、コンピュータに関する知識や技術はありましたが、教育や学習に関する知識は皆無に近い状況でした。たまたま、阪大大学院で在籍した生物工学や行動工学の研究室の近くに、教育技術学の研究室があり、スイッチ 1 つで教室が様々な形の学習空間に変容したり、児童生徒の反応を個々に分析するシステムなどを見せてもらっては、黒板とチョークの教育しか受けてこなかったものにとって、これで学校の教育がどう変わるのか想像すらできなかつたものです。実践センターに赴任後、コンピュータによる学習支援や教授支援の研究について、現場の先生方の考えが知りたく、富山県内の小中高等学校 400 校にアンケートをしました。予想されたとはいえ、結果は悲惨でほとんどの回答が、コンピュータなどの活用には否定的だったのを覚えています。30 年前のことです。

日本教育工学会の設立は、1984 年 11 月ですので、来年は創立 30 周年を迎えることになります。私にとって、この 30 年のあいだ、教育工学の分野で仕事をさせてもらって様々なことを学びました。なにより教育工学が単なる工学ではなく、工学における様々な技術や解析方法をもって教育という営みを科学的に分析するとともに改善していく学問であること。また、その逆に、教育に関わる事象の主体である人間そのものや教育事象を分析することで、その成果を新たな教育に役立つ工学技術の開発に応用していく学問であること。研究対象としては、認知、メディア、コンピュータ利用、データ解析、ネットワーク、授業研究、教師教育、情報教育、インストラクショナルデザインなど様々な領域がありますし、研究方法も多様で学際的です。それだけに多様な分野の研究者が活躍できる懐の深さが魅力の学問なのです。

初代の東洋会長が、学会創設にあたって「われわれはいま、情報文化に関する限り、文字の発明以外には人類の歴史の中に類比を見いだせないほどの大きな変革に当面していると思う。この変革もまた、教育の仕方だけにその影響を限定はし得ず、教育の内容や前提にまで広く深い影響を及ぼさずにはおかない必然性を秘めている。そういう環境の変化とセットして、教育の方法のあり方を研究するのが教育工学者の使命である。」と述べられています。コンピュータやインターネット等、情報通信技術の飛躍的な進歩で学校や教室の学習環境も変化し、デジタル教科書や教材も使用されるようになってきました。他方、グローバル化の進展で、次代を生きる子どもたちに求められる能力も変化してきています。この大きな変革の時代にあって、教育の内容や方法の改善に向け、学会に期待される役割も非常に大きくなってきています。会員一人ひとりの教育工学研究が進展することは勿論ですが、皆さんの叡智を結集して、学会として社会に貢献できるよう、日本教育工学会の発展に向け、皆さんとともに頑張りたいと思います。今後ともどうかご協力の程よろしくお願い申し上げます。



# 日本教育工学会第 29 回全国大会開催にあたって

日本教育工学会 会長 山西潤一（富山大学）

日本教育工学会第 29 回全国大会を秋田の地で開催できますことを、心からお喜び申し上げます。はからずも今年 06 月から、第 7 代会長に選出され、大変名誉なことであるとともに、その任の重さに身の引き締まる思いをしています。全国大会は会員の皆様の日頃の研究成果の発表の場として、また、研究のさらなる発展に向けた交流の場として、学会にとって最大の行事です。皆様に満足いただける全国大会になるよう頑張りたいと思います。

さて、本大会では、大会企画委員会や会場となる秋田大学を中心にした実行委員会の皆様の多大の努力で、現代的教育課題の解決や将来の教育や学習のあり方を考える様々な取組みがプログラムされました。シンポジウム「学習資源のデジタル化がもたらす未来の学び」では、初等中等教育から高等教育までを対象とし、国内外の学習資源のデジタル化の現状を踏まえ、それらが学習の本質にどのような影響をあたえるか、まさに未来の学びの姿を考える内容です。また、前回から企画されたトークセッションですが、登壇者の教育や研究にかける思いを聞きながら、参加者がそれぞれに新たな教育研究へのエネルギーを貰ったように思います。今年のテーマは「理論と現場をつなぐ」で、教育の営みを分析し、その成果をエクスポータブルする教育工学の原点かと思えます。震災被災地で放課後学校を運営している方のトークも予定され、未だ復興途上の被災地の教育支援を考える良い機会にもなるでしょう。さらに本大会では国立大学教育実践研究関連センター協議会との協力企画として、秋田大学附属小学校の授業公開とワークショップが企画されました。ワークショップでは秋田大学の臨床型模擬授業教室で実施された授業に基づき、研究者、実践者、実務家教員、指導主事、学生・大学院生等が、どのように実践を記述・記録したのか、そこからどのようなアウトプットが生まれるのかなどについて議論されます。教員養成における指導のあり方、授業研究や教育技術にかかる実践研究の場として期待したいと思います。好評のランチセッションでは、教育工学を支える関連企業の皆さんによる最新の教育システムやデジタル教材などが紹介されます。今年も現地の名産を味わいながら産学協同で教育支援機器や教材を考える楽しいセッションになるでしょう。参加者が設定した教育工学に関連するテーマについてインフォーマルに語り合うワークショップも、比較授業分析や新しい学びの評価、テスト理論、大学の認証評価、教育情報化の歴史など 6 テーマで行われます。実践は進んでいるものの研究として認識されていない問題や、新しい情報技術の教育利用などの萌芽的な研究をどう展開させるか、興味関心のある参加者で熱心に議論されることでしょう。

さて、今年度の一般研究では、口頭発表やポスターなど、392 件もの多くの発表がありました。教育工学研究が様々な対象に広がってきている現れです。また、教育を取り巻く現代的課題を議論する 10 の課題研究では、システム開発、教育・学習支援、教師教育、情報教育、高等教育改善、ゲーム型学習、インフォーマルラーニングなどの課題に対して 61 件の発表が予定されています。参加者の発表と議論で、課題解決が進むことを期待したいと思います。

この秋田大会では、上記のような様々な形で、研究発表や討論が展開されることでしょう。学会は研究発表の場であると同時に、他者の意見や発表から研究をより深めたり、新たなアイデアを生み出す場です。日頃の研究の悩みを語り合う絶好の機会でもあります。今大会をとおして、参加者の皆さんの交流の輪が広がり、研究がいつそう発展することを祈念しています。

最後になりましたが、この大会開催に向け、多大な時間と労力をかけて企画・準備していただいた美馬のゆり委員長を中心とする大会企画委員会の方々、会場を提供し、新しい試みを積極的に考えていただいた浦野弘委員長をはじめとする大会実行委員会の方々、協賛や展示で多大なご協力をいただいた企業の方々に厚く御礼申し上げます。

# 日本教育工学会 第29回全国大会のお知らせ（最終報）

## 大会 Web ページ : <http://www.jset.gr.jp/taikai29/>

日本教育工学会第29回全国大会を、下記のように秋田大学 手形キャンパスにおいて開催します。合計468件（シンポジウム5件、トークセッション6件、一般研究392件（うちポスター148件）、課題研究61件、インターナショナルセッション8件）の発表と、ワークショップ6件が予定されています。多くの方々のご参加をお待ちしています。詳細は、大会 Web ページ、本ニューズレターに同封されております参加案内（プログラム）をご覧ください。

### 1. 開催期日・会場

期日:2013年09月20日(金)～23日(月) (20日(金)は授業公開とワークショップのみ)

会場:秋田大学 手形キャンパス 〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号

<http://www.akita-u.ac.jp/honbu/access/index.html>

### 2. 大会日程

09月20日(金)		
14:00～14:45 秋田大学附属小学校授業公開（授業公開は大学内の臨床型模擬授業教室で行います。ワークショップの一つとして事後検討会を行います。）		
17:00～19:00 ワークショップ		
※ 09月20日(金)は、大会の受付はありません。		
09月21日(土)	09月22日(日)	09月23日(月, 祝日)
08:15～17:00 受付	08:30～17:00 受付	08:30～15:00 受付
09:00～11:00 一般研究発表1 (口頭発表)	09:00～11:40 一般研究発表3 (口頭発表)	09:00～10:40 一般研究発表4 (口頭発表)
11:10～12:30 一般研究発表1 (ポスター発表)	11:50～13:10 一般研究発表3 (ポスター発表)	10:50～12:10 一般研究発表4 (ポスター発表)
12:30～14:00 昼食, 理事会 企業ランチセッション	13:10～14:10 昼食, 各種委員会	12:10～13:30 昼食
14:15～16:15 シンポジウム	14:10～15:10 全体会 (表彰, 会長講演)	13:30～16:00 課題研究発表
16:30～18:30 一般研究発表2 (口頭発表)	15:20～17:50 トークセッション	16:10～ 大会企画委員会
18:00～20:00 懇親会		
10:00～18:00 企業展示	09:00～14:10 企業展示	
* 企業展示が21日(土), 22日(日)に開催されます。ぜひ見学にお立ち寄り下さい。		
* 特に, 21日(土)の昼休みには, 無料ランチ付きの企業ランチセッションを開催します。		

### 3. 全体会について

09月22日(日)の全体会では, 会長講演, 論文賞および研究奨励賞の表彰等があります。

- ・ 会長講演: 山西潤一 (富山大学 教授)
- ・ 論文賞, 研究奨励賞の表彰

### 4. シンポジウム・トークセッションについて

09月21日(土)の午後にはシンポジウムが, 次のテーマで開催されます。09月22日(日)の午後には, トークセッションが開催されます。詳細は大会 Web ページをご覧ください。なお, 当初予定していたチュートリアルは, 都合により開催しません。

シンポジウム: 学習資源のデジタル化がもたらす未来の学び

トークセッション: JSET Talk 2013 ～理論と現場をつなぐ～

## 5. 企業ランチセッションについて

前回大会に引き続き、初日の昼休みに企業ランチセッションを開催します。3つの教室を利用して、各企業にプレゼンテーションをして頂きます。聴講者にはお弁当が無料で配布されますので、奮ってご参加下さい。お弁当は、各教室 50 個配布する予定です。先着順です。

さらに、企業展示スペースでは、09月21日（土）にババヘアアイス、09月22日（日）に稲庭うどんを無料で配布いたします。この機会に、企業展示スペースにお立ち寄りいただき、ご賞味下さい。

## 6. 懇親会について

懇親会は下記のように開催します。当日申込も受け付けますので、ご参加下さい。

日時：09月22日（日）18:00～20:00

場所：秋田大学内生協食堂

費用：当日 6,000 円（事前申込は終了しました）

## 7. 服装について

今年も、昨年に引き続き、発表者ならびに参加者の服装は、クール・ビズを推奨します。

## 8. 託児室の利用について

前回大会に引き続き託児室を提供します。事前申込制で、今大会では、料金は学会が負担します。ただし、キャンセル料が発生する時期にキャンセルされた場合は、実費を負担して頂きます。詳細は、大会 Web ページをご覧ください。

## 9. 大会当日の受付について

★参加登録者の方は、電子メールで送られた「大会参加票」等をプリントしてお持ち下さい。

### ①事前送金済みの場合

- ・電子メールでお送りした「大会参加票」を、大会受付の「事前送金済参加者」窓口でお渡し下さい。電子メールの件名は「大会管理より受付番号を発行しました」となっています。
- ・お支払いいただいた金額に応じて、大会プログラム、講演論文集 CD-ROM 等をお渡しします。
- ・プリントして持参していただいた「大会参加票（名札用）」を名札ケースにお入れ下さい。
- ・大会参加票をお忘れになる場合に備えて、できれば受付番号をメモしておいて下さい。
- ・大会参加票を持参されなかった方は、「当日会場に掲示される「事前送金者リスト」で番号を確認の上「事前送金済参加者」窓口にて、その旨、お申し出下さい。
- ・送金金額に不足があり、大会当日に差額をお支払いいただく場合も、大会受付でお受けします。

### ②当日参加の場合

- ・当日参加者は、大会受付にて、「当日参加受付票」に必要事項を記入して、それを大会受付の「当日参加者」窓口にてお渡し下さい（名刺をお渡し下さる場合は、連絡先住所等の記入を省略することができます）。
- ・ただし、学会ホームページから参加登録を行った会員は、自動送信されたメールをプリントしてお持ち下さい。会場で「当日参加受付票」に記入していただく必要がなくなります。
- ・お支払いいただいた金額に応じて、大会プログラム、講演論文集 CD-ROM 等をお渡しします。
- ・名札ケースに名刺を入れるか、お名前をカードに書いて入れて下さい。
- ・懇親会費を支払われた場合は、名札にマークを貼らせていただきます。
- ・大会当日に参加費等をお支払いの方は、おつりが出ないようにご準備下さい。

## 日本教育工学会シンポジウムの開催報告

●日時:2013年06月15日(土) ●会場:東京工業大学 大岡山キャンパス

本シンポジウムは2013年06月15日(土)に東京工業大学 大岡山キャンパスで実施された。午前の部では、久保田賢一委員(関西大学)の司会のもと「状況論・活動論的観点から教育工学研究を考える」をテーマとして議論された。

日本教育工学会では、状況論・活動論を理論的枠組みとする構成主義に基づいた研究が少しずつ報告されるようになった。構成主義に基づいた研究は、従来の教育工学研究を捉え直すひとつの流れを創り出している。しかしながら、構成主義に基づいた研究の多くは記述的な知見を提示するもので、これを教育工学研究の中に取り入れることの課題が残されている。

そこで本シンポジウムでは、状況論・活動論を専門とする茂呂雄二氏(筑波大学)、上野直樹氏(東京都市大学)にそれぞれ状況論・活動論の観点から、学習/発達について発表をしていただいた。また、指定討論では、構成主義と教育工学との接点を探ることを目的に、岸磨貴子氏(明治大学)や会場からの問いかけをもとに、状況論・活動論が教育工学研究にどのような視座を与えてくれるのか、状況論・活動論による研究知見をどう教育工学の研究に活かすことができるのかを議論した。

茂呂雄二氏の発表では「学習/発達と活動理論」について、ヴィゴツキーに由来する活動理論から、学習と発達を弁証法的な関係として捉えることの必要性を主張された。教育工学では、研究者の多くが発達段階に即したカリキュラムや教材を開発している。しかし、このように学習を発達段階の枠内に限定することで、疎外された学習(たとえば、英語技能認定試験)が発生するという問題が生じてしまう。そこで、学習と発達を二分せず、その関係を弁証法的に捉えることによって、発達の意味を再構成することが提案された。

上野直樹氏は、「人-モノのアレンジメントを通じた技術、エージェンシーの形成と学習環境デザイン」の発表の中で、技術や工学をどのように見ていくかについて状況論に基づいた研究の視点を提案した。遺伝子工学における実験の状況性を事例として、実験がどのように状況に埋め込まれているかを説明し、その中で技術や工学を研究する具体的な方法を提示した。教育工学研究では、研究知見の一般性が審査の基準のひとつになっているが、上野氏は、教育工学会が、知識、技術、熟達を捉え直し、その一般性とはどのようなことかについて、より議論していくことが不可欠であると指摘した。

指定討論では、状況論・活動論から教育工学研究をする時これまでとどう違った視点や研究方法があるのか、状況論・活動論に基づいて教育活動を研究することでどのような知見が提示できたのか、授業法のデザインと学習環境デザインの違いは何か、状況論・活動論の観点を取り入れた教育工学研究論文をどのように査読すべきか、といったことが議論された。

岸磨貴子(明治大学)、久保田賢一(関西大学)

第2部は、大久保昇氏(内田洋行)の司会のもと、「政府の教育の情報化ビジョンの今後の進展と教育工学の関わり」と題して、3人の登壇者と1名の指定討論者を交えて開催された。

1人1台の情報端末による教育のインフラ整備に支えられた新しい学びには様々な可能性がある一方で、デジタル教材の開発や教員の指導力の向上、必要な予算の確保等いくつかの課題が山積している。政府の目標である2010年代中の本格展開に向けては、関係する方策を整理し、行政、現場、研究者が協働で推進していく必要があり、日本教育工学会の果たすべき役割と責任が大きい。また、海外の先進事例、特に日本に先行する韓国から学ぶべきことも多い。そのような今日の状況から、本日は、日本政府の文教政策責任者、韓国での政策立案に関わる政府機関の研究者をお招きし、教育工学会の研究者とのシンポジウムを企画したとの司会の久保氏から冒頭の趣旨説明があった。



まず、はじめに、文部科学省生涯学習政策局の新井孝雄参事官より、日本政府の進める教育の情報化について説明があった。教育の情報化は、特別支援学校を含めたすべての学校を対象に、一斉授業の興味関心を引き出すとともに、個別学習、協働学習を活性化させる手段としてICTを活用していくものである。「教育の情報化ビジョン」では、5つの論点として、情報活用能力の



育成、教科指導における ICT 活用、特別支援教育における ICT 活用、校務支援におけるクラウド活用、教員支援が示された。その後の「ポスト情報化ビジョン」での大きな動きがあることとして、まず、各自治体で進められているタブレット端末の整備計画が紹介された。また、与党「教育再生実行本部」の第一次提言に、2010年代の1人1台タブレット端末の整備実現が掲げられたこと、閣議決定された第二期教育振興基本計画においても、確かな学力の育成を目的とした ICT の活用、教育用コンピュータ1台あたりの児童生徒数3.6人、教室ごとに1台の電子黒板、高速インターネット、高速無線 LAN、デジタルコンテンツの標準化等が教育環境の整備として明確に示されたこと、同じく閣議決定された「世界最先端 IT 国家創造」宣言においても、教育環境の IT 化が取り上げられており、このように国を挙げて教育の情報化を進めていこうとしていることが紹介され、同時に教育工学会への大きな期待も語られた。

次に、Cho Kyubok 氏（韓国教育情報学術院：KERIS 研究員）からは、韓国における教育の情報化の現状の取り組みが紹介された。韓国では2000年代の最初から情報の教育化が大きく推進され、現在は5段階目として、スマート教育の推進に入ってきている。スマート教育が目指しているのは、単なるスマート機器の活用ではなく、教育内容、方法、環境、研修、インフラも含めた授業の革新をねらっている。中でも「デジタル教科書」が注目されているが、次年度以降に公開されるものはコンテンツだけでなく、プラットフォームと一体で開発が進められているとのこと。その最新のコンテンツの一部を動かしながら紹介をいただいた。2007年から先行して試行錯誤を重ねてきた「デジタル教科書」の経験を踏まえたものでその水準の高さに驚かされる。その他にも教師のコミュニティを形成する必要性、政策を推進するリーダーシップの重要性の指摘があった。一方で既に無償で提供されている国語、英語、数学の「e教科書」が、十分には活用されていない実態があることも報告された。最後に、近年、日本、韓国、米国とも目指す方法、内容は似てきており、研究レベルでの協力も深めながら推進していく必要があるとのメッセージをいただいた。



堀田龍也氏（玉川大学）からは、我が国の教育の情報化に寄与できる教育工学の研究／学会を目指したい、として講演された。1998年の文部省の協力者会議で定義された情報活用能力に関する議論から教育工学の研究者は深く関わってきた。最も直近では、新たに開始される情報活用能力調査に関する協力者会議にも参画している。研究と政策の位置関係が論じられるとき、研究は政策に対して批判的であるべきであり、政策の普及に対する協力としての調査や研究は研究ではないといった見方があるが、政策を「実践」とみなすのであれば、それは教育工学研究の対象になり得るのではないかと。教育工学会初代会長の東洋氏は「教育工学とは、教育者がより適切な教育行為を選ぶことができるようにする工学である」と定義した。政府の教育振興基本計画には多くの文言が ICT に関して割かれているが、その実現には課題もまだ多く、教育工学研究として取り組むべき点は多々ある。我々の学会では単発的な研究としてはいくつもなされているが、それらをまとめあげた全体のスキームを示せていないのではないかと。「エビデンスを提供する、モデルを示す、手順を示す」のような形で学会として知見を束ねるような動きが必要である。



また、税金のもとで行われる政策そのものには研究範囲の限界はあるが、その周辺にはまだまだたくさん研究の観点がある。理屈から実践化するところまでやっけてこそ研究成果の説得力が産まれる。また、教育現場には ICT の活用で何かの呪縛があり普及を妨げている、これを解いていくことの重要性も付け加えられる。KERIS や英国の BECTA のような調査研究機関がない日本でどのようにしていくべきか課題があるとした。



指定討論者の山西潤一氏（富山大学）からは、学会として国の政策立案に関与していくことの重要性、また韓国と日本の教育制度の近しさからモデル校と全国レベルの普及に距離があるのは日本も韓国も共通するところがあり、会長として、学会としてできることを考えていきたいと提言があり、その上で3人の発表者に対して、以下のような質疑が行われた。

新井氏には、学びのイノベーション事業の普及・今後について、ICT支援員の配置、政策提言への関与のあり方について質問された。

新井氏からは、学習者用デジタル教科書の機能の方向性、指導方法に関する類型化をもとにした指導事例集の作成、学力調査との対応関係等について議論が進められている。まずは20校の中でデータを収集し、研究成果としてアピールしていきたい。学びのイノベーション事業の今後としては、学校単位レベルではない地域レベルでの先導的な教育システムの開発に向けた動き、コンテンツの標準化などを進めていくとした。ICT教育をなぜ推進するのかという議論ではなく、道具として導入を進めながら証拠を積み上げていきたいとした。ICT支援員についても教育振興計画で明記していることが報告された。

Cho氏には、スマート教育が、教室レベルの改革なのか、もっと大きな教育改革を目指しているのか。それを実現する教員研修、教員養成はどのようなのか。デジタル教科書とe教科書の関係についても質問された。

Cho氏からは、スマート教育が目指しているのは教室革命だが、韓国は塾を含めた私的な教育の影響が強まっており、これからの人材育成の方向性と2つの面から学校教育を改革する必要があり、機器の活用はそのための一手段とした。研修に関しては研修そのもののIT化も含めて検討している。韓国でこれから公開されるデジタル教科書と既に全国に提供されたe教科書を比べると、e教科書は日本での指導者用デジタル教科書に近い。それでもe教科書が十分に使われていないのは、デジタル化がねらっている学力と現在の学力試験の間にギャップがあるからだとした。



堀田氏には、政策と研究の連携のための制度や体制はどのようなものがあるのか質問された。

堀田氏からは、今あるテクノロジーの提供だけでなく、政策が単なる実施に終わるリスクがある。研究者としては、政策が立案される前に、成果を出せるように役立つ小さな実践→検証→モデル化や、政策実施を支援する周辺のシステム整備や環境に関する研究やアプローチを増加させること、また、多くの研究成果を教育工学会としてメタ整理して学校現場が参照しやすいようにすること等が政策と研究の連携につながるのではないかといった提言があった。また、韓国においてはKERISのような研究・調査・実行組織の存在が重要な役割を果たしているとして、日本として韓国のKERISそのものについての調査研究も必要なのではないかといった提言があった。

最後に、山西会長より、今後学会として、韓国のKERISのような機関や韓国教育工学会との情報共有をこれからも進めていくこと、また国の政策に対しての学会からの提言や研究による協力をさらに真剣に取り組んでやっていきたいとして、本シンポジウムを閉じた。

稲垣 忠（東北学院大学）、大久保 昇（内田洋行）



## 2013年度 日本教育工学会冬の合宿研究会のご案内（第一報）

テーマ「教育工学研究におけるアクション・リサーチ」

### ■ 趣旨

近年、教育研究において研究者が実際の現場に赴き、実践者と協同しながら研究や実践の変革を進める方法として「アクション・リサーチ」が注目されている。教育工学の関連分野においても、発達のワークリサーチ（活動論）やデザイン研究（学習科学）など、新しい研究方法として注目されつつある。

冬合宿では、実際にアクション・リサーチを実施する方法と研究成果を論文として執筆する方法に焦点を当て、アクション・リサーチの経験豊富な講師陣と共に「教育工学におけるアクション・リサーチ」について探求します。単にアクション・リサーチに関するノウハウを学ぶだけでなく、論文を執筆するための重要事項を議論したいと思います。

### ■ 日程

2014年 02月 22日（土）～23日（日）（予定）

### ■ 定員

30名。ただし両日とも参加可能な者に限ります。

### ■ 講師

松下佳代教授（京都大学 高等教育研究開発推進センター）（予定）

その他

### ■ 対象者

「教育工学におけるアクション・リサーチ」について理解を深めたい研究者・実践者・教育関係に従事する方

### ■ 会場

神奈川県近辺の施設（セミナールーム等）と旅館にて、2日間の熱い合宿にしたいと考えています。プログラムは①午前・午後の部と②夜の部の2部構成で実施します。①午前・午後の部では、ワークショップ形式の議論を行います。②夜の部では旅館にて温泉で疲れを癒し、懇親会で親睦を深めつつも、真剣な「語りの場」を設ける予定です。

## 日本教育工学会 大学教員のためのFD研修会のお知らせ（第一報）

この研修会は、日本教育工学会がこれまでの知見を活用し、大学教育の授業改善や教員の授業力向上へ寄与しようと、2009年度から実施されているものです。大学教員や大学教員を目指す学生などを対象としています。本研修会の修了生には学会より認定書を発行し、本研修を受講したことを証明します。本年度の研修内容は、昨年度、好評であった内容を踏襲し、「大学授業デザインの方法－1コマの授業からシラバスまで－」をテーマに開催いたします。さらに、これまでに同内容のセミナーに参加し、認定を受けた方には、ファシリテーターとしての参加募集も予定しております。

企画：日本教育工学会 FD 特別委員会（委員長：鈴木克明）

1. 日時 2014年03月03日（月）10:00～17:30

2. 会場 首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス

東京都千代田区外神田1-18-13 秋葉原ダイビル12階 [www.tmu.ac.jp](http://www.tmu.ac.jp)

○JR 山手線、京浜東北線、総武線「秋葉原駅」より徒歩1分

3. セミナーの内容

「大学授業デザインの方法－1コマの授業からシラバスまで－」をテーマに参加者それぞれが授業実践事例を持ち寄り、ワークショップ形式で行います。授業のデザインに関する問題意識の明確化、授業のデザインに関する情報・課題の共有などから議論を始め、「何を誰に教えようとしているのか」、「どんな方法で教えるのか」、「良い点・悪い点は何か」などをグループで議論しながら授業の改善案を考えていきます。

研究会の開催案内

テーマ： 新時代の学習評価／一般

- 日 時：2013年10月26日(土)
- 会場：兵庫医科大学(担当：藤原康宏)
- 申込締切：すでに発表募集を終了しました
- 原稿提出：2013年09月15日(日)

●募集内容：

本学会論文誌では、2011年12月に「新時代の学習評価」と題した特集号を発行しました。近年の学習評価の研究では、真正な文脈における評価を意識した理論研究、システム開発、教育実践が行われています。評価手法は、ペーパーテストから、ポートフォリオ、ピア・アセスメント、ダイナミック・アセスメントなどに多様化しており、それらを効果的に運用するためのeポートフォリオやeテストングなどのシステムも開発されています。

そこで、本研究会では、教育工学における学習評価の研究が、次世代の学習環境にどのように貢献できるかについて、議論したいと思います。また、従来通り、上記テーマにこだわらず教育工学一般の発表も募集します。

●申込方法：研究会 Web ページよりお申し込み下さい。

●原稿執筆：締切後1週間以内に、申込時に登録されたメールアドレス宛てに発表の採択結果と執筆要項をお送り致します。

●原稿提出：原稿はPDF形式で、研究会 Web ページの「発表申込フォーム」より、発表申込時に発行された「受付キー」を使用してご提出下さい。なお、期限までにご提出いただけない場合は、発表取消となりますのでご注意ください。

研究会の発表募集

テーマ： エンタテインメントを活用した教育／一般

- 日 時：2013年12月14日(土)
- 会場：徳島大学(担当：光原弘幸)
- 申込締切：2013年10月13日(日)
- 原稿提出：2013年11月03日(日)

●募集内容：

近年、教育の多様化が進んでおり、その1つとしてエンタテインメントを活用した教育が注目されています。映画、演劇、ゲームなどエンタテインメントの領域は広く、それを活用した教育もまた多様な可能性を有しています。本学会全国大会ではこれまでに、ゲームと教育・学習の融合をテーマにした課題研究やワークショップが企画され、多くの発表と活発な議論がありました。今年の全国大会でも、課題研究「ゲーム型学習の導入と実践の評価」が企画されており、さらなる発展が期待されます。

そこで、本研究会では、エンタテインメントを活用した教育に関するアイデア、システム開発、実践・評価など幅広く発表を募集し、議論したいと思います。また、従来通り、上記テーマにこだわらず教育工学一般の発表も募集します。

今後の研究会のご案内

2014年	会場	申込締切	原稿提出締切
03月01日(土) 教師教育と授業研究／一般	愛知工業大	01月05日(日)	01月26日(日)

年間予約購読のお勧め

●年間購読：年5回発行される研究会報告集の年間予約購読価格は郵送料込みで3,500円です(当日売りは1冊1,000円と割高になります)。研究会の受付でも年間購読を受け付けております。

研究会の開催報告

- 日 時：2013年07月06日(土)
- 会場：岩手大学
- 発表件数：23件
- 参加者数：51名(内非会員16名)

あいにくの雨模様の中、2008年以来の岩手大学での研究会が開催されました。今回は、相次ぐ「大学改革実行プラン」や「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて(答申)」等々の公表により、「質的転換」を迫られている「大学教育」を対象としてテーマを設定しました。

本学会における「大学教育」分野はまだまだ発展途上かと思いますが、それを象徴するように、今回、多様な専門分野を持つ研究者から自身の教育実践に基づいた発表があり、「(教育工学分野の研究会に)初めて参加しました」「初めて発表しました」という声もいただきました。このように多様な分野の研究者が集まって「教育」を考えることができるのが「教育工学」の魅力の1つだと考えられるので、今後もこのような研究会や全国大会が実施されることを期待します。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。



担当：江本理恵(岩手大学)

## 特集号「特集：1人1台端末時代の学習環境と学習支援」の案内（第三報）

ノート PC やタブレット PC，スマートフォンなどの情報端末の所有率が高くなり，各自が端末を持ち歩く時代を迎えています。これを受けて，小・中・高等学校，大学等の高等教育機関，企業等において，これらの1人1台端末による学習環境に高い関心が集まっています。そのため，1人1台端末を活用した実践，環境整備における機種選定や空間配置などの配慮事項，学習用コンテンツの提供方法，学習者に求められる情報活用能力，学習履歴の活用，整備された学習環境における ICT 支援員の役割，従来の学習環境と比較した場合の学習効果などに関する研究成果が期待されています。

本特集号では，拡大しつつある1人1台端末時代の学習環境と学習支援に関する研究成果を募集します。

### 1.対象分野

- (1) 1人1台端末を前提とした授業設計，学習環境デザイン
- (2) 1人1台端末を前提とした学習用コンテンツの開発と提供方法
- (3) 1人1台端末を前提としたソフトウェア・教育システムの開発
- (4) 1人1台端末を活用した授業実践とその効果
- (5) 1人1台端末を活用した講義配信，反転授業，協調学習，アクティブラーニング
- (6) 1人1台端末におけるソーシャルメディアの利用
- (7) 1人1台端末による学習履歴の活用などの学習評価の方法
- (8) 1人1台端末の学習環境に求められる教員の ICT 活用指導力
- (9) 1人1台端末の活用を対象とした教員養成・研修プログラム
- (10) 1人1台端末の学習環境における ICT 支援員の役割

### 2.募集論文の種類

通常の論文誌と同様に，「論文」「システム開発論文」「教育実践研究論文」「資料」「寄書」を募集します。それぞれの論文種別については，投稿規定をご覧ください。

論文の査読は，通常の論文誌の場合と同じです。ただし，査読は2回限りとし，編集委員会が示した掲載の条件を修正原稿で満たさない場合は採録になりません。「ショートレター」として既に掲載されている内容を発展させて「論文」として投稿することも可能ですが，単に分量を増やして詳細に説明しただけでは発展させたことになりませんので，ご注意ください。なお，本特集号へ投稿された論文が特集号編集委員会にて対象分野外と判断された場合には，一般論文として扱うこととなりますので，あらかじめご了承ください。

特集号編集委員会では，本特集号のテーマの特徴から，1人1台端末時代の学習環境と学習支援に関する実践を「教育実践研究論文」，あるいは「資料」の条件を満たすようにまとめ，積極的に投稿していただくことを期待しています。

### 3.論文投稿締め切り日（2014年11月発行予定）

投稿原稿を02月05日（水）までに電子投稿をお願いします。ただし，02月12日（水）までは，論文を改訂することができます。締め切りの延長は行わない方針です。

投稿原稿提出締切（電子投稿）：2014年02月05日（水）

最終原稿提出締切（電子投稿）：2014年02月12日（水）

#### 4.論文投稿の仕方

原稿は、「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>)に従って執筆し、学会ホームページの会員専用 Web サイトから電子投稿して下さい。郵送による投稿は受け付けませんことになりました。

#### 5.問い合わせ先

日本教育工学会事務局

Tel/Fax : 03-5740-9505

電子メール : tokushu2014@jset.gr.jp

#### 6.特集号編集委員会

編集委員長 :

堀田龍也 (玉川大学)

副編集委員長 :

小柳和喜雄 (奈良教育大学)

山内祐平 (東京大学)

編集幹事 :

望月俊男 (専修大学)

森本康彦 (東京学芸大学)

委員 :

稲垣 忠 (東北学院大学)

緒方広明 (徳島大学)

加藤 浩 (放送大学)

木原俊行 (大阪教育大学)

向後千春 (早稲田大学)

清水康敬 (東京工業大学)

鈴木克明 (熊本大学)

高橋 純 (富山大学)

寺嶋浩介 (長崎大学)

中橋 雄 (武蔵大学)

東原義訓 (信州大学)

村上正行 (京都外国語大学)

矢野米雄 (徳島文理大学)

山田政寛 (九州大学)

渡辺健次 (広島大学)

---

## 日本教育工学会 第 29 回通常総会議事録

---

日時：2013年06月15日（土） 12:00～12:55

場所：東京工業大学デジタル多目的ホール

永野会長の司会で議事を進めた。

### 1.出席者数の確認

定款第 47 条により出席者数を確認し，出席者 50 名，委任状 175 通，合計 225 名であり，正会員総数 2,137 名の 1/10 である 214 名以上の出席があることが確認された。

### 2.第 1 号議案：2012 年度事業報告および収支決算について

議案書に基づいて，総務担当の中山理事から説明があった。

近藤監事から，収支決算に関する監査報告があり，問題ないことが説明された。また，学会事業に関する意見が述べられた。

その結果，第 1 号議案を承認した。

### 3.第 2 号議案：2013 年度事業計画および収支予算案について

議案書に基づいて，総務担当の中山理事から説明があった。

第 2 号議案を承認した。

### 4.第 3 号議案：会長，理事，監事，評議員の選任の件

赤倉選挙管理委員会委員長から，役員選任の経過および選任案について説明があった。

第 3 号議案を承認した。

永野会長から退任の挨拶があった。

山西次期会長から就任の挨拶があった。

以上

## 日本教育工学会第14期第17回/第15期第1回理事・評議員会（合同）議事録

日 時：2013年06月15日(土) 13:00～13:50

場 所：東京工業大学 第一食堂 2階 季の味ガーデン

### <第14期>

出 席：

理事 永野和男会長，永岡慶三副会長，山西潤一副会長，  
赤倉貴子，赤堀侃司，植野真臣，大久保 昇，小柳和喜雄，加藤 浩，  
久保田賢一，清水康敬，鈴木克明，中山 実，南部昌敏，野嶋栄一郎，  
東原義訓，前迫孝憲，美馬のゆり，村川雅弘，室田真男，矢野米雄，  
山内祐平，吉崎静夫

評議員 稲垣 忠，今井亜湖，岡本敏雄，柏原昭博，木原俊行，永田智子，  
西森年寿，平嶋 宗，堀田龍也，森田裕介

監事 近藤 勲

(合計 34名)

### <第15期>

出 席：

理事 山西潤一会長，  
赤倉貴子，赤堀侃司，稲垣 忠，大久保 昇，小柳和喜雄，加藤 浩，  
木原俊行，久保田賢一，鈴木克明，永岡慶三，中山 実，南部昌敏，  
東原義訓，堀田龍也，前迫孝憲，美馬のゆり，村川雅弘，  
室田真男，吉崎静夫

評議員 石塚丈晴，今井亜湖，植野真臣，岡本敏雄，柏原昭博，黒田 卓，  
永田智子，西森年寿，平嶋 宗，益子典文，森田裕介，山内祐平

監事 永野和男，近藤 勲

(合計 34名)

### ●第14期第17回理事会・評議員会議題

1. 前回の理事・評議員会議事録の承認について

第14期第16回理事会議事録を資料について一部修正の上，承認した。

2. 会員の移動について承認した。

(1)新入会員 32名(正会員:20名，准会員:2名，学生会員:10名)

(2)退会会員 10名(正会員:5名，准会員:3名，学生会員:2名)

(3)種別変更 78名(正会員へ2名，准会員へ74名，学生会員へ2名)

合計 2,746名 (正会員:2,122名，准会員:417名，学生会員:185名，維持会員:17名，名誉会員:5名)

3. 第14期の総括について

永野会長より、第14期の総括があった。

4. 退任理事・評議員より挨拶があった。

●第15期第1回理事・評議員会議題

1. 新会長の挨拶

山西潤一新会長から、新任の挨拶があった。

2. 理事の役割分担について

山西会長から理事の役割担当案が資料を基に説明があり、これを承認した。

3. その他

(1)協賛依頼を承認した。

- ・第29回ファジィシステムシンポジウム(日本知能情報ファジィ学会)
- ・教育システム情報学会第38回全国大会(教育システム情報学会)

(2)下記の推薦者について

・平成26年度科学技術分野の文部大臣表彰科学技術省及び若手科学者賞受賞候補者の推薦について(依頼) (文部科学省研究振興局より)について会長から推薦の依頼があった。

(3)新任理事・監事・評議員から学会の運営に関する意見があった。

(4)今後の理事会

第15期第2回理事会	2013年07月20日(土)	日本女子大学(目白キャンパス)
第15期第3回理事会	2013年09月14日(土)	電子メールによる
第15期第4回理事会・評議員会	2013年09月21日(土)	秋田大学
第15期第5回理事会	2013年11月16日(土)	日本女子大学(目白キャンパス)
第15期第6回理事会	2014年01月18日(土)	電子メールによる
第15期第7回理事会	2014年03月15日(土)	日本女子大学(目白キャンパス)
第15期第8回理事会	2014年05月10日(土)	日本女子大学(目白キャンパス)

以上



# 日本教育工学会 第15期 第2回 理事会 議事録

日時：2014年07月20日（土）14:40～16:50

場所：日本女子大学 目白キャンパス 新泉山館 中会議室

出席：

理事 山西潤一会長，吉崎静夫副会長，中山 実副会長，赤倉 貴子副会長，赤堀侃司，大久保 昇，小柳和喜雄，加藤 浩，木原俊行，久保田賢一，三宮真智子，鈴木克明，寺嶋浩介，東原義訓，堀田龍也，永岡慶三，南部昌敏，美馬のゆり，村川雅弘，室田真男

監事 近藤 勲，永野和男（合計 22名）

○議事に先立って山西会長から，会員数のさらなる増加，関連学会および学術会議等との連携を図り，日本教育工学会のアイデンティを高めたいとした上で，今期の方針に関わる以下の4点の内容の挨拶があった．①科研費等での研究成果などをとおして，学会として政策等に対してコメントを提出できるようにしたい．②高等教育を含む学校現場を対象とした実践研究の活性化を図りたい．③諸外国との日常的なさらなる学術交流の枠組みを作りたい．例えば英文学会誌の電子化等．④会員数の増加等を目指した学会パンフレット等，広報機能を強化したい．

## 1. 前回の理事会議事録の承認について

- ・第14期第17回 / 第15期第1回理事・評議員会（合同） / 第29回通常総会の議事録を承認した．

## 2. 新入会員の移動について承認した．

- (1) 新入会員 32名（正会員：11名，准会員：2名，学生会員：19名）
- (2) 退会会員 5名（正会員：2名，准会員：3名）
- (3) 種別変更 2名（学生会員へ：2名）

## 3. 各種委員の委員就任について承認した．

## 4. 各種委員会からの報告・審議

### (1) 編集委員会

- ・論文誌編集進捗状況（一般号，特集号，ショートレター，英文誌）について説明があった．
- ・海外との学術的な連携のため英文誌の電子化を進めていくこととし，ワーキンググループを編成して検討することが報告された．

### (2) 顕彰委員会

- ・論文賞，研究奨励賞の投票結果について説明され，研究奨励賞1名，論文賞1編を決定した．
- ・研究奨励賞の推薦および集計方式について検討された．論文賞の評価方法および決定手順について編集委員会で検討することとなった．

### (3) 研究会委員会

- ・研究会の運営について順調であることが報告された．

(4) 企画委員会

- ・夏の合宿研究会，総会シンポジウムについて報告された。

(5) 大会企画委員会

- ・第29回全国大会における企業展示申込の状況について報告された。

(6) 特別企画委員会（FD）

- ・産学共同セミナーが2014年03月03日（月）首都大学東京秋葉原サテライトで行われることが報告された。

(7) 広報委員会

- ・ニューズレター（Vol.195）の台割案および原稿依頼先が提案された。

(8) 総務・会計

- ・会計管理方法の引継状況について報告された。
- ・理事会資料のペーパーレス化について承認された。
- ・学会として科研費申請をすることについて検討を進めていること，30周年記念事業について検討を進めていることが報告された。
- ・教育工学選書の第2期発行内容について検討を進めるワーキンググループを立ち上げる予定であることが報告された。

5. その他

(1) 「教育関連学会連絡協議会」について

- ・教育関連学会連絡協議会への会費納入について報告され，承認された。

(2) 以下の協賛依頼を承認した。

- ・「情報教育シンポジウム SSS2013」協賛のお願い
- ・「e-Learning Award 2013 フォーラム」協賛名義使用申請（フジサンケイビジネ スアイより）

(3) 今後の理事会

- ・第15期 第3回 理事会                      2013年09月14日（土）電子メールによる
- ・第15期 第4回 理事会・評議員会        2013年09月21日（土）秋田大学
- ・第15期 第5回 理事会                      2013年11月16日（土）日本女子大学（目白キャンパス）
- ・第15期 第6回 理事会                      2014年01月18日（土）電子メールによる
- ・第15期 第7回 理事会                      2014年03月15日（土）日本女子大学（目白キャンパス）
- ・第15期 第8回 理事会                      2014年05月10日（土）日本女子大学（目白キャンパス）

## 新入会員

(2013年05月03日～2013年07月05日) 64名 (正会員：31名, 准会員：4名, 学生会員：29名)

### ■正会員 (31名)

小林昭文 (聖徳学園中学・高等学校)  
阿久津仁史 (文京区立茗台中学校)  
片野尚子 (東京大学医学部附属病院)  
古川智樹 (関西大学)  
加賀秀和  
生田知久  
飯島睦美 (国立松江工業高等専門学校)  
安藤ハル  
(株) 日立製作所中央研究所  
中島俊男 (大分大学)  
岩崎日出夫 (東海大学)  
竹村徳倫  
(国際交流基金, ニューデリー日本文化センター)  
黒崎茂樹 (都留文科大学)  
岡田涼 (香川大学教育学部)  
中井好男 (大阪大学大学院)  
加藤亮介 (十文字学園女子大学)  
宮谷敦美 (愛知県立大学)  
谷脇すすみ  
谷口征子  
石川智子 (目白研心中学校・高等学校)  
武井安彦 (鎌倉女子大学)  
小林明子 (島根県立大学)

金子豊久 (産業技術短期大学)  
櫻井典子 (新潟大学)  
國田祥子 (中国学園大学)  
鈴木そよ子 (神奈川大学)  
原田聡 (大阪府立三軒家東小学校)  
匂坂智子 (麗澤大学)  
能登宏 (北星学園大学)  
毛利幸雄 (大阪大学)  
福井元 (一般財団法人救急振興財団)  
建内高昭

### ■准会員 (4名)

乾義文  
伊東美智子  
(公益社団法人兵庫県看護協会)  
小林忠資 (非常勤講師)  
寺田佳孝 (名古屋商科大学)

### ■学生会員 (29名)

山田仁 (早稲田大学)  
相部博子 (早稲田大学)  
赤坂康輔 (東京大学大学院)  
曾根健吾 (東洋大学)  
蔣妍 (京都大学大学院)  
矢崎理恵 (早稲田大学)  
成田智恵子 (京都工芸繊維大学大学院)  
小松祐貴 (上越教育大学)

山田加奈子 (大阪大学大学院)  
中岡晃也 (青山学院大学大学院)  
村井裕美子 (Columbia University)  
八楯一史 (山形大学大学院)  
酒井喜久子 (兵庫県立大学大学院)  
河合道雄 (京都大学)  
伊藤駿 (千葉大学)  
太田貴之 (千葉大学大学院)  
野原智志 (富山大学)  
吉川久美子 (東京大学大学院)  
岩崎凜太郎 (東京電機大学)  
李哲 (大阪大学大学院)  
渡部敬寛 (東京理科大学大学院)  
石原英理子 (早稲田大学大学院)  
保坂和樹 (茨城大学大学院)  
吉川由香里 (九州大学大学院)  
酒井郷平 (静岡大学)  
孫帙 (大阪大学)  
中村駿 (早稲田大学)  
赤澤紀子 (電気通信大学大学院)  
鬼澤敦子 (千葉大学大学院)

以上

## ◎学会日誌

2013年

- ・2013年09月20日(金)～23日(月)  
第29回全国大会(秋田大学 手形キャンパス)
- ・2013年10月26日(土)  
研究会「新時代の学習評価」(兵庫医科大学)
- ・2013年12月14日(土)  
研究会「エンタテインメントを活用した教育」(徳島大学)

2014年

- ・2014年02月22日(土)～23日(日)(予定)  
冬の合宿研究会「教育工学研究におけるアクション・リサーチ」(神奈川県近辺)
- ・2014年03月01日(土)  
研究会「教師教育と授業研究」(愛知工業大学)

## ◎国際会議の案内

2013年

- ・ICWL 2013  
<http://icwl2013.tajen.edu.tw/>  
(10/6-9, Kaohsiung, Taiwan)
- ・E-LEARN 2013  
<http://www.aace.org/conf/elearn/>  
(10/21-25, Las Vegas, USA)
- ・ICCE 2013  
<http://icce2013bali.org/>  
(11/18-22, Bali, Indonesia)

2014年

- ・SITE 2014  
<http://site.aace.org/>  
(3/17-24, Jacksonville, USA)
- ・ACHI 2014  
<http://www.iaria.org/conferences2014/ACHI14.html>  
(3/23 - 27, Barcelona, Spain)
- ・eLmL 2014  
<http://www.iaria.org/conferences2014/eLmL14.html>  
(3/23 - 27, Barcelona, Spain)

## お問い合わせ先 E-mail

- 論文投稿に関するお問い合わせ  
編集委員会 [editor@jset.gr.jp](mailto:editor@jset.gr.jp)
- 研究会の開催についてのお問い合わせ  
研究会事務局 [study-group-core@jset.gr.jp](mailto:study-group-core@jset.gr.jp)
- 全国大会の開催についてのお問い合わせ  
大会企画委員会 [taikai2013@jset.gr.jp](mailto:taikai2013@jset.gr.jp)
- 合宿研究会やシンポジウムの開催について  
のお問い合わせ  
企画委員会 [kikaku@jset.gr.jp](mailto:kikaku@jset.gr.jp)
- ニュースレター編集に関するお問い合わせ  
広報委員会 [kouhou@jset.gr.jp](mailto:kouhou@jset.gr.jp)
- その他のお問い合わせ  
学会事務局 [office@jset.gr.jp](mailto:office@jset.gr.jp)

## 広報委員会

担当副会長：赤倉 貴子(東京理科大学)  
広報委員長：南部 昌敏(上越教育大学)  
幹事：高橋 純(富山大学)  
委員：石塚 文晴(福岡工業大学短期大学部)  
富永 敦子(早稲田大学)  
堀田 博史(園田学園女子大学)

E-mail : [kouhou@jset.gr.jp](mailto:kouhou@jset.gr.jp)

## 発行所●

日本教育工学会事務局  
〒141-0031  
東京都品川区西五反田1-13-7マルキビル  
TEL&FAX 03-5740-9505  
E-mail : [office@jset.gr.jp](mailto:office@jset.gr.jp)  
<http://www.jset.gr.jp>  
郵便振替00180-2-539055

日本教育工学会ニュースレター  
No. 195  
2013年9月5日

発行人●会長 山西 潤一(富山大学)